

伊坂幸太郎氏よりコメントをいただきました。

2009年の初演の際、自分の書いた小説がもとになっている  
ということを忘れ、純粹に楽しんだことを覚えています。

観終えた後、いつになく良い気持ちになり、当時、構想中だった  
続編『死神の浮力』に早く着手したくなりました。

今回の舞台もきっと、小説の世界を大事にしてくれたもの  
なると思っています。